

令和2年産 仙南稲作情報（第1号）

令和2年6月4日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3431 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

- 生育は平年よりも2～3日の遅れ
- 「いもち病」の発生源となるので、残苗はすぐに処分しましょう！
- 浅水管理で、初期生育を確保しましょう！

1 気象経過（丸森アメダス、5月1日～5月31日）

- ・5月の気温は、寒暖の差が大きく変化しましたが、月平均気温は17.0℃で、平年より高く経過しました（平年差+1.9℃）。
- ・日照時間は、中旬から下旬にかけて少ない日がありましたが、月計は189時間と平年よりやや多く経過しました。（平年比104%）。

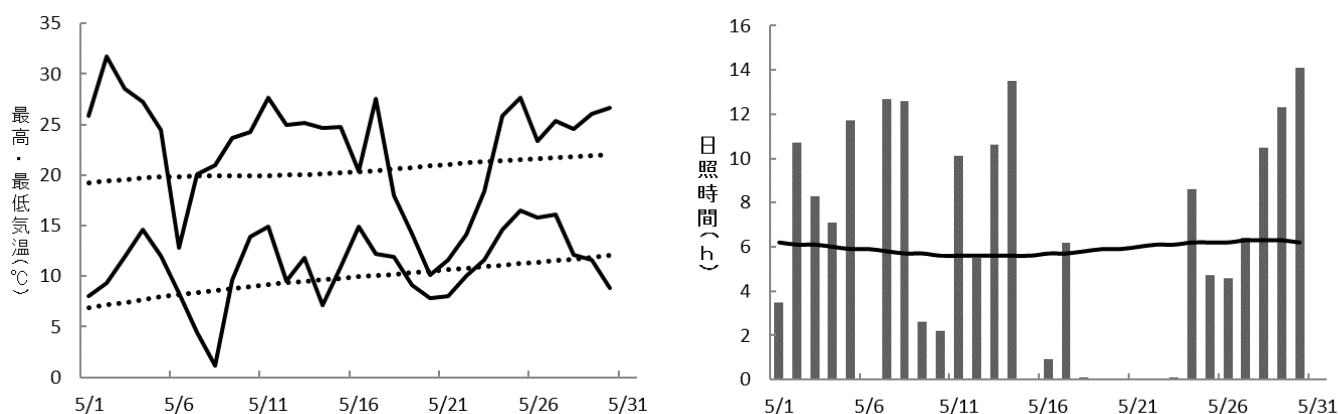


図1 田植期間の気象経過（丸森アメダス、5月1日～5月30日）

2 管内の生育状況

【管内の田植状況】

- ・本年の田植作業は、平年よりも1～2日遅いペースで進みました。

表1 管内の田植時期(平年は過去5カ年の平均)

田植始期（5%）	5月5日	平年より1日遅い
田植盛期（50%）	5月12日	平年より1日遅い
田植終期（95%）	5月25日	平年より2日遅い

【6月1日調査結果】（実調査日：6/1）

生育は、草丈短め、莖数は少なく、2～3日の遅れ

（1）主要品種

表2 管内の生育調査結果（6月1日）

☐ 皆さんのほ場は、場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にして下さい。

No.	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			莖数			葉数		
				本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/㎡)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/16	5/12	20.2	71	87	73.9	59	84	5.7	▲ 0.8	0.0
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/9	5/7	22.9	88	93	128.5	68	45	5.9	0.0	▲ 0.9
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/23	5/20	16.1	70	100	72.2	80	72	4.1	▲ 0.9	▲ 0.1
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/5	5/20	23.5	101	106	91.8	101	101	5.9	0.9	1.2
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/19	5/20	19.7	85	105	67.7	90	111	4.8	▲ 0.5	0.8
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/23	5/20	13.3	95	89	78.1	132	93	3.8	▲ 0.0	0.6

- 南部平坦の「ひとめぼれ」については、平年と比較し、草丈：短め、莖数：少なめ、葉数（生育の早晚）：やや遅れている状況となっています。
- 西部丘陵「ひとめぼれ」については、草丈：短め、莖数：やや少なめ、葉数：やや遅れている状況となっています。
- 5月の気象が高温傾向で経過したため、苗の活着も良く、生育は概ね順調ですが、一部のほ場で藻類の影響による生育遅延がみられます。

（2）「だて正夢」（粘りの強い低アミロース米）

表3 「だて正夢」生育調査結果（6月1日）

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		莖数		葉数	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/㎡)	前年比	(枚)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/5	5/5	28.1	92	69.5	49	5.1	▲ 0.8

- 前年と比較し、草丈：やや短め、葉数：やや遅れている状況です。
- 莖数がとれにくい品種ですが、前年比で49%と、今のところ、少なめに推移しています。

（3）直播き栽培（鉄コーティング湛水直播き栽培）

※次回6月10日からの調査となります。

3 今後の管理

本田における生育は、概ね順調です。

今後の管理として、水管理や病害虫防除、雑草防除などに気をつけましょう！

【水管理】

昨年の台風で稲わらを大量にすき込んだ場合は、今後気温の上昇に伴い、ガス（硫化水素）の発生が予想されますので、一時落水して、ガス抜きと土壌への酸素供給を行いましょう。

- 莖数不足のほ場が多いので、日中の水温が高くなる浅水管理（水深2～3cm）で分けつの発生を促進し、初期生育を促進させましょう。
- 低温の心配があるときは、5～6cmの深水管理としましょう。
- 入水は早朝または夕方に行いましょう。日中に入水を行うと、水口付近の水温・地温が低下し、生育ムラの原因となりますので、避けるようにしましょう。

【病虫害防除】（5/22 県病虫害防除所発表）

- ① 初期害虫（イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ）は、‘平年並み～やや少ない’の発生予報です。

＜イネミズゾウムシの発生予報＞

発生時期：‘やや早い’の5月第6半旬（5/26～31） 発生量：平年並み

＜イネドロオイムシの発生予報＞

発生時期：‘やや早い’の6月第1半旬（6/1～5） 発生量：やや少ない

＜初期害虫防除のポイント＞

- 箱施用剤またはペースト肥料混和側条施用した場合は、本田での防除は必要ありませんが、ほ場により散見されていますので、発生状況をよく観察し、下記の密度を超えたら防除しまし
よう。（特に、直播き栽培については、早めの防除を心がけましょう）

表4 初期害虫に対して防除要否を判断する目安

害虫名	防除を必要とする目安
イネミズゾウムシ	畦畔際2m程度の所に、100株当たり成虫が130頭以上（晩期栽培の場合は70頭）
イネドロオイムシ	侵入盛期（6月第1半旬）に、100株当たり成虫が25頭以上、または産卵最盛期（成虫本田侵入盛期の約10日後）に100株当たりの卵塊数が80個以上

② いもち病

- 残苗（補植用苗）は本田でのいもち病の発生源となるので早急に処分しましょう。
- 残苗を処分する際は、いもち病が発病していないか確認し、発病があった場合は本田での発生に注意しましょう。
- 本田において発生が確認された場合は、茎葉散布剤により直ちに防除しましょう。

❑ 葉いもち予防剤を箱施用していない場合は

発生してからの防除では効果が期待できないので、6月15日～20日頃に予防粒剤を散布しましょう。田植時期を遅らせた場合でも、この時期に散布します。

●「残苗」から「いもち病」が発見されています！！

●残苗は早急に処分しましょう

【 雑草防除 】

(1) 藻類（アオミドロ、表層薄利）の対策について

- ・今年、5月に入り日照時間が多く、気温も高かったことから藻類の発生による表層剥離等により稲の生育が遅れるなどの被害がみられます。
- ・被害の見られるほ場については、中干しを行い軽く田面を干す等の対策を行ってください。（有効茎数が確保されていないので、2～3日おきに湛水と落水を繰り返す「間断かん水」とする）
- ・被害が大きい場合は、藻類（アオミドロ）に登録のある薬剤の散布を行ってください。（薬剤散布の場合「環境保全米」等に取り組んでいる場合は、登録している生産者団体等に連絡してから実施してください。）

(2) 斑点米カメムシ類対策としての雑草防除

- ・斑点米カメムシ類が水田へ飛来するのは、通常稲の出穂期以降ですが、ヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類を水田に呼び寄せてしまいます。特に、イヌホタルイやシズイはアカスジカスミカメが寄生、産卵することが確認されているので、除草を徹底する必要があります。
- ・今、皆さんのほ場に残っている雑草の種類と葉齢や稲の葉齢を確認し、適切な剤を選んで、適期に処理しましょう。

❑ 最新情報で農薬登録を確認のうえ、使用してください。

❑ 農薬使用の際に飛散防止対策を講じてください。

○令和2年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

○宮城県では農薬の使用が増えるこの時期に、「農薬危害防止運動」を実施しています。

○農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農産物を届けるため、農薬の使用に当たっては最新の登録情報を確認し、適正に使用しましょう。

○最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>）で確認できます。